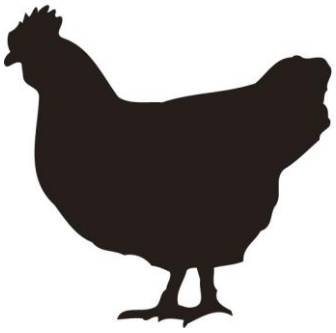
高病原性鳥インフルエンザの発生を防ぐために

平成29年11月



JAグループ
JA／経済連／全農・くみあい飼料㈱
㈱科学飼料研究所・全農畜産サービス㈱

平成 28 年度は、渡り鳥の飛来が始まる 11 月以降、日本各地の野鳥から高病原性鳥インフルエンザウイルス(H5N6 亜型)が検出され、過去最大規模となる 22 都道府県 218 事例に及びました。そして、家きん農場では 9 道県 12 農場で同亜型のウイルスによる本病が発生し、約 166 万羽が殺処分されました。

本年 10 月以降、中国、韓国、台湾の野鳥や家きんから本病ウイルスが検出されており、国内でも警戒を一層強めていた矢先、11 月 5 日に島根県の死亡野鳥から本病ウイルス(H5N6 亜型)が検出されました。このウイルスは昨年度から国内に定着していたものではなく、渡り鳥の飛来によって今回新たに国内に持ち込まれたと考えられています。

ウイルスに感染した野鳥が農場周辺に飛来して環境をウイルスで汚染し、そのウイルスが様々な経路で農場内や鶏舎内に持ち込まれるリスクがあります。

このパンフレットは、生産者の皆様と私たちJAグループが協力して鳥インフルエンザに対処するために作成しているものです。これからの農場での本病発生を食い止めるため、ぜひご活用ください。

原因に対して有効な対策を考える

ウイルスを持ち込むのは［動物］［水］［人・物］
ウイルスを持ち込まない対策を考えます

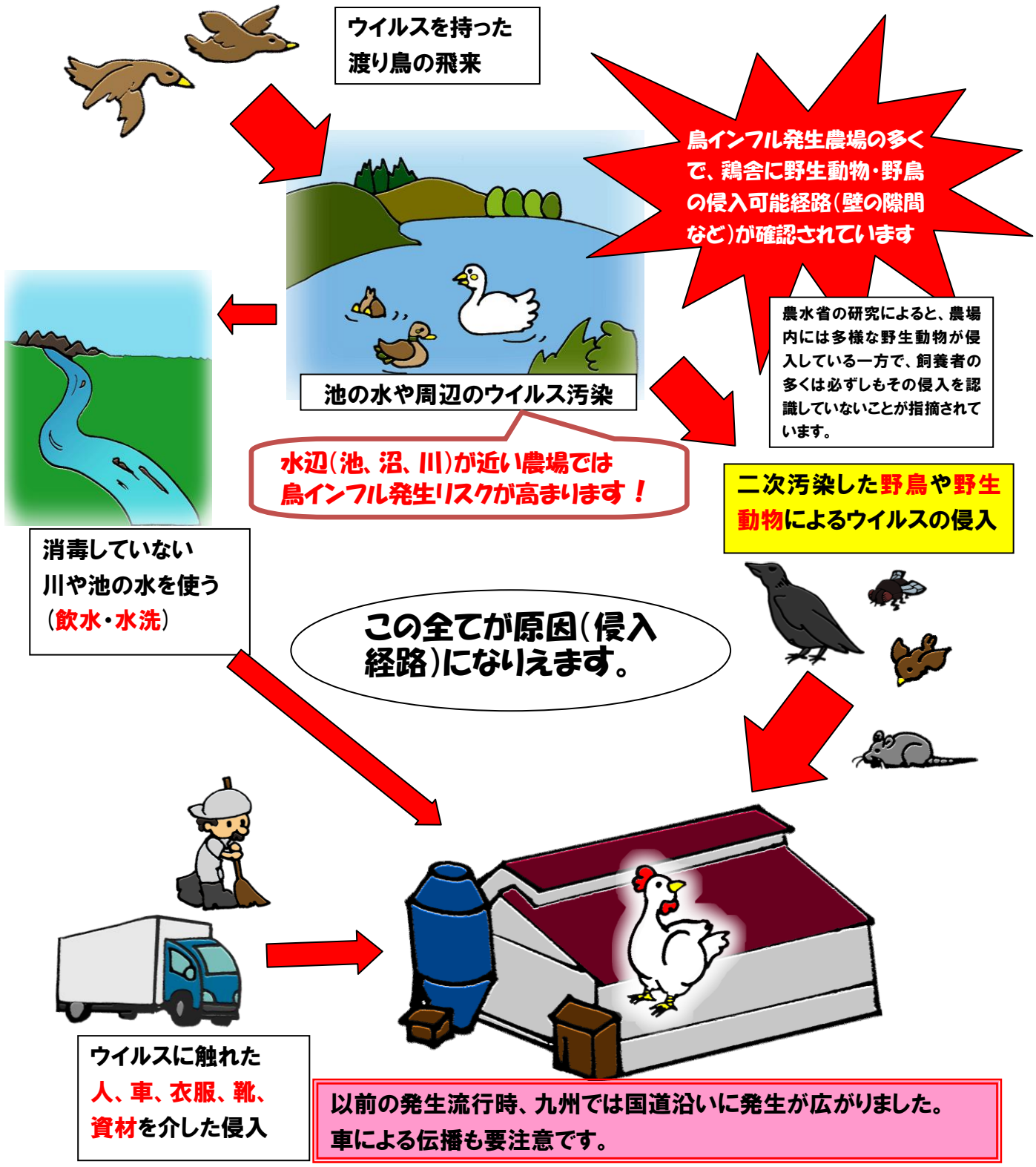
見えないウイルスを消毒薬できちんと殺すための
消毒薬の種類と使い方を考えます

農場でチェックするべきポイントを考える

原因と対策を十分に理解したうえで
あなたの農場をチェックしてみましょう

鳥インフルエンザの発生原因に対して対策を考える

農場・鶏舎への侵入経路



対　策

1．スズメ等の小鳥を含む野鳥・ネズミ・野生動物・害虫対策

2．水の衛生対策

3．人や車、資材による汚染対策

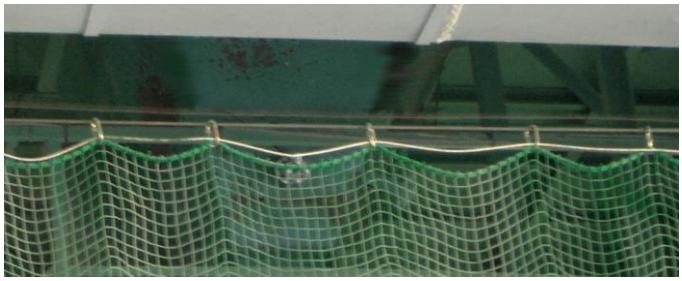
4．水辺の野鳥対策

4つの侵入防止策について、くわしく解説します

1．スズメなどの小鳥を含む野鳥・ネズミ・野生動物・害虫対策

鶏舎の壁のスキマや，防鳥ネットの破れを修理する
常にヒモなどを持ち歩き，小さなネットの破れも気が付いたら直す

レベルアップ！
10cm 程度離して2重にネットを張るとさらに安全。編み目は2cm×2cm
（2重にすると野鳥が止まった場合でも，糞が中に入ることを防げる）



防鳥ネットのスキマ

ネットにかかったカラス

野鳥が入らないよう、鶏舎の出入り口は、開けたままにしないこと
やむを得ず開けたままにするときは、ネットをかける

レベルアップ！
鶏舎に前室があると扉が2重になってより安全。換気口にもネットを張る

鶏舎の外に飼料を散乱させない。散乱した飼料はすぐに片付ける
飼料はハトやスズメ、カラス、ネズミ，虫を引き寄せる

レベルアップ！
鶏舎周辺は舗装してネズミの好む草むらをなくす。清掃を徹底する

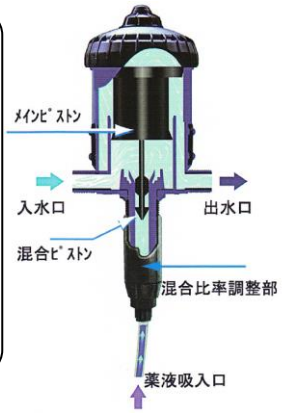
鶏舎の壁の穴

除草した鶏舎

舗装した鶏舎

2. 水の衛生対策

池や沼の水は飲水や水洗に使わない
池の水をどうしても使うなら塩素を添加する
塩素添加する場合は毎日塩素濃度を調べる
井戸水も、できるだけ消毒して使う
（生ワクチンの飲水投与に井戸水などを使う場合は、いったん塩素で消毒をしてから、くみおきやカルキ中和剤で塩素を抜いた水を使うこと）



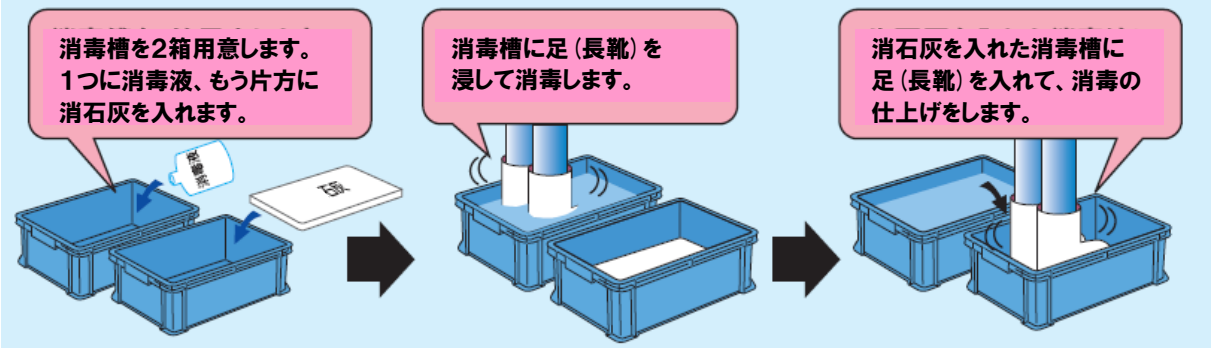
飲水添加機
（ドサトロン）

塩素などの薬液を水の配管ラインに自動的に注入する

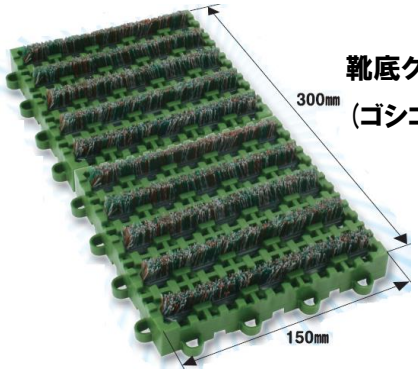
薬液切れに注意
電源は不要

3. 人や車、資材による汚染対策

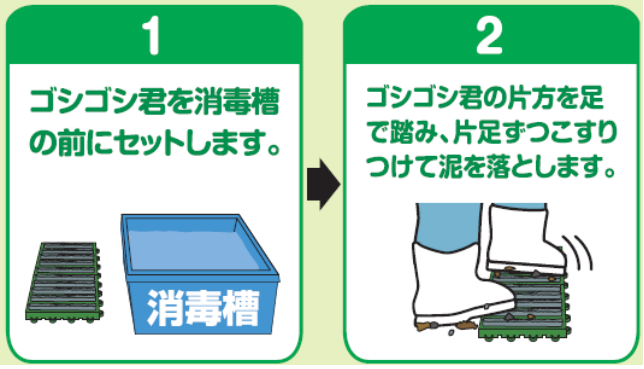
鶏舎専用の作業着・靴を設置し、鶏舎に入るときは必ず交換する
長靴の履き替えは、長靴の踏み込み消毒より効果がある
作業着は毎日洗濯し、できれば外に干さずに、乾燥機で乾かす
長靴は、底の汚れを中心に毎日ていねいに洗い、できれば舎内で乾燥する
着替えやすいように、鶏舎の入り口に前室をつくるとよい



踏込み消毒に消石灰を使う場合の例。なお、消毒液は深さ10cmは入れ、毎日交換しましょう



靴底クリーナー
（ゴシゴシ君）



長靴の底は、つどきれいにしてから消毒槽に踏み込みましょう
もう1個消毒槽を用意して、靴底クリーナーを消毒槽の液に沈めて使う方法もあります

鶏舎に入れるものはすべて消毒してから持ち込む
卵のラックや廃鶏のカゴなど、場外に出たものはさらに念入りに消毒する

レベルアップ！ 卵ラックや廃鶏カゴは農場出入り口で受け渡しをする

鶏舎の中や外、地面の消毒を徹底する
消毒薬として売られているものは、すべての種類で効果がある

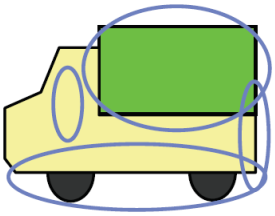
レベルアップ！ ぬらしても大丈夫な設備を備えるようにし、日常から消毒する

外来者の農場立ち入りを制限する。外来者入場記録簿を常備する。
電話やメールを活用する。面会は農場の外でおこなう

レベルアップ！ 外勤の人と，農場内勤の人は交差をしないようにする

外部車輌は消毒ゲートや噴霧機で消毒する
外部作業者用の衣服・長靴を用意する
毎日交換し、きれいなものを用意する

車両消毒の重点箇所



手洗い、うがいを心がける
入浴と着替えでふだんから清潔にする
できれば更衣室にシャワーを設置し、
職員や外来者にシャワーを浴びてもらう。
直売所に来るお客さんも消毒してもらう

4. 水辺の野鳥対策

平成 28 年度の国内発生時の疫学調査から、農場周辺に水辺（池、沼、川など）があると鳥インフル発生リスクが高くなることが統計学的に明らかとなりました。

水辺に忌避テープや防鳥ネットを設置する
冬季はため池の水を抜く
※ただし、対象の水辺が農場の所有でない場合は、
これらの対策は行なえませんので行政等に相談してください。
農場関係者は野鳥が飛来する場所（特に水辺）には近づかない

忌避テープの設置（出典：農林水産省）

防鳥ネットの設置（出典：家畜改良センター）

つぎに消毒薬について、くわしく解説します

消毒薬を置くべき場所　と　これに適した消毒薬の一覧表

農場内、鶏舎

鶏舎内散布、器具、車両、消毒槽	→	逆性石けん液（ロンテクト 500 倍液）
鶏舎内散布、鶏舎前室、地面	→	消石灰
鶏舎の出入口	→	手指の消毒用アルコール
鶏舎のトイレ、休憩所等	→	薬用石けん

事務所

出入口（噴霧機、マット）、器具、車両	→	逆性石けん液（ロンテクト 500 倍液）
事務所周辺、駐車場、地面	→	消石灰
事務所の入り口	→	手指の消毒用アルコール
事務所のトイレ等	→	薬用石けん

畜産用の消毒剤は、いずれも鳥インフルエンザウイルスに効果があります

消毒剤	商品名	薄める倍率	金属腐食性
逆性石けん	ロンテクト、アストップ、クリアキル、パコマ	500～2000	ない
塩素剤	ビルコンS クレンテ スミクロール	500～2000 300～3000 100～1000	少しある
ヨウ素剤	ポリアップ16 ファインホール バイオシッド30	2000～5000 200～800 500～1000	少しある
アルデヒド	エクスカット 25％SFL、グルタプラス	200～1000	少しある
オルソ剤	オーチストン、ゼクトン、タナベゾール	100～300	少しある
アルコール	消毒用エタノール	そのまま使う	ない
水酸化ナトリウム		50倍溶液にする	（皮膚をいためる）
炭酸ナトリウム		25倍溶液にする	（皮膚をいためる）
生石灰		水を加え散布	（皮膚をいためる）
消石灰		そのまま散布	（皮膚をいためる）

参考：消毒薬の希釈早見表

希釈倍率	以下の量の消毒液を作るのに必要な原液			以下の量の原液で作れる消毒液の量		
	18リットル	100リットル	500リットル	100cc	250cc	500cc
100倍	180cc	1リットル	5リットル	10リットル	25リットル	50リットル
300倍	60cc	333cc	1．7リットル	30リットル	75リットル	150リットル
500倍	36cc	200cc	1リットル	50リットル	125リットル	250リットル
1000倍	18cc	100cc	500cc	100リットル	250リットル	500リットル
2000倍	9cc	50cc	250cc	200リットル	500リットル	1000 リットル
3000倍	6cc	33cc	166cc	300リットル	750リットル	1500 リットル

消毒剤の力を最大に引き出しましょう

逆性石けんを使うときの注意……

温度が低いと効果が落ちます。25℃と5℃では数十倍も効果に差があります。

→ 冬はいちばん濃い　500倍　の希釈を基本にしましょう。

→ 少しでも温かい水を使い、気温の上がるお昼時に消毒をしましょう。

塩素剤やヨウ素剤は、低温でも効果があまり落ちないので活用しましょう。
オルソ剤も低温に強く、コクシジウムにも効くので活用しましょう。耐油長靴が必要です。

石灰（消石灰、生石灰）を使うときの注意……

消石灰や生石灰は、水分と反応して強アルカリ性になり、消毒をします。
踏み込み消毒槽に消石灰を使う場合は、液体の消毒槽をはじめに置きましょう。湿り気があってはじめて消毒の効果があるためです。

古くなると、空気中の炭酸ガスや水と反応して炭酸カルシウムとなり、消毒効果がなくなります。見た目は変わりませんが、1週間をめどに交換をしましょう。
地面にまいた場合、雨が降ったあとは効果が落ちるので、散布しなおしてください。

生石灰は水と反応するとたいへん熱いので、火傷しないよう注意してください。

水洗を効果的に行いましょう……

水洗の効果を上げるのは、「水量」と「水圧」です。この2点を意識しましょう。

消毒薬の効き目は下がっていきます

- 鶏糞やホコリ、エサなどの有機物が混じりこんだとき
- 日光に長時間さらされたとき
- 作ってから時間が経過したとき

見た目では分からないので、消毒液は毎日交換が基本です

最後に、農場のチェックに、一緒に取り組みましょう！

農場防疫チェックシート

農場名：　　実施者：

実施日：　　年　　月　　日

チェック場所	項目	チェック欄
人の出入	外部の人の入場を制限している	
	24時間以内に他の養鶏施設を訪問した人は入場させていない	
	玄関に手指消毒と、踏込消毒槽を設置している	
	訪問者は消毒後、訪問記録に記載している	
	入場する人は専用作業着、長靴を着用している	
車輌の出入	防疫に関する看板を入口に設置している	
	入口に動力噴霧器等を設置している	
	入場車輌は入口で十分消毒し、記録を取っている	
	運転手は入口で手指、靴を消毒している	
鶏舎内への出入	鶏舎入口には踏み込み消毒漕がある	
	鶏舎ごとに専用の長靴を着用している	
	鶏舎ごとに専用の作業着を着用している	
	鶏舎に入る前にかならず長靴の交換、手指の洗浄・消毒をしている	
	鶏舎から出る時は着替え後手指を消毒している	
	鶏舎内に持ち込む器具機材はかならず消毒している	
消毒槽、作業着等の保守管理	消毒槽の消毒液を毎日取り替えている	
	作業着,長靴はこまめに洗浄している	
	十分な消毒液をストックしている	
鶏舎内の作業	毎日、鶏の異常の有無を観察している	
	毎日、鶏舎ごとの死亡数を記録し上司に報告している	
	通路を定期的に清掃し消毒薬を散布している	
	鶏舎内専用の掃除道具がある	
	鶏舎の扉は開けっ放しにしていない	
	夜間は鶏舎を施錠している	
飲用水の衛生	湖水等の水を直接飲用水として用いていない	
	塩素剤等により消毒している	
鶏舎周囲の衛生管理	定期的に鶏舎周囲に石灰等を散布している	
	定期的に除草を行っている	
	不要なものを放置していない	
野鳥、野生動物対策	防鳥ネット等で鶏舎内への野鳥侵入を防止している	
	鶏舎だけでなく、倉庫や鶏糞処理施設にも防鳥ネットを設置している	
	防鳥ネットの網目は適切か（2cm角以下）	
	防鳥ネットに破損がないか、点検している	
	破損箇所があれば、すぐに修繕している	
	カラス等の餌になるものを敷地内に置いていない	
	ネズミ対策をしている	
	ハエなどの衛生昆虫対策をしている	
	野生動物、野犬等の侵入防止策をしている	
鶏糞処理	鶏糞が散らからないよう適切に処理している	
	鶏糞処理施設への野鳥の侵入防止対策をしている	
鶏出荷時について	履物、出荷カゴなどは洗浄・消毒済みのものを用いている	
死鳥回収時について	回収業者に死鳥を回収してもらう際は、農場出口付近としている	
作業員の教育等	作業員に対して防疫研修を実施している	
	作業員の鳥インフルエンザ発生国への訪問をさせていない	
	作業員は日常的にカモ、アヒル等の水鳥に近づかない	
	作業員の健康管理をしている	
記録と保管	毎日の鶏舎内作業チェック表（死亡数の集計を含む）を記録・保管している	
その他	気楽に相談できる獣医師、家保職員がいる	
万が一のときのために	管轄家保の連絡先電話番号を把握している	

おかしいな…　と思ったら

農林水産省は新しい家畜伝染病予防法の中で、以下のような症状がみられた場合、鳥インフルエンザの発生の可能性があるとして通報することとしています。
これを行わなかった場合、殺処分の手当金の減額や交付無しとすることとされています。

・気がついたら速やかに通報を行う症状【高病原性鳥インフルエンザの特定症状】
→ 同じ鶏舎内での1日の死亡率が、過去3週間の平均値の2倍以上である
・鳥インフルエンザの疑いを否定できない場合に通報する症状
→ とさかが青ざめている、産卵低下、沈うつなどの症状がみられる
→ 同じ鶏舎内で5羽以上がまとまって死んでいたり、うずくまるなどの異常がある

鳥インフルエンザの症状を見たことがある人はあまりいません。おかしな症状があったら、すぐに家保に通報し、診断を受けることが義務付けられるようになりました。

異常な鶏を発見した場合には直ちに家畜保健衛生所にご相談ください

また、新しい家畜伝染病予防法のなかでは、以下のような基本的な飼養衛生管理を遵守するように義務付けられています。

① 人や車両は立ち入りを規制し、立ち入り禁止の看板を設置する。
② 人や車両を農場内に入れる時は必ず消毒し、入場記録をとる。
③ 畜舎の周囲に防鳥ネットを張る。野生生物を鶏舎内に侵入させないようにする。
④ 飲水は飲用に適したものにし、川の水などを使う場合は必ず消毒する。
⑤ 農場内専用の衣服・履き物を設置し、出入り時に必要な消毒を行う。

今年も日本のすべてが警戒エリアです。
農場だけでなく、みんなが気持ちを切り替えましょう。
総力で拡大をくいとめ、日本の養鶏産業を守りましょう。

お問い合わせはお近くのJAグループまで
JA／経済連／全農／くみあい飼料㈱／㈱科学飼料研究所／全農畜産サービス㈱

主に薬品・消毒薬に関するお問い合わせは
㈱科学飼料研究所

動薬部：	027-347-3223	札幌事業所：	011-214-3656
東北事業所：	019-637-6050	関東事業所：	027-346-9091
北九州事業所：	096-294-8322	南九州事業所：	099-482-3044

主に機械・設備に関するお問い合わせは
全農畜産サービス㈱
マテリアル事業部資材課：　03-5245-4871